

第286回サロン9 条例会報告 2016・12・20

テーマ『高江——森が泣いている 2』

記録映画 藤本幸久・影山あさ子 共同監督

沖縄オスプレイの墜落6日後に原因究明がされないまま飛行が再開され、怒りが沸騰する中での鑑賞となりました。

『高江——森が泣いている 2』は、米軍北部訓練場の内側を描くドキュメンタリーで、ヘリパッド建設の現場をできるだけ多くの人に知ってほしいと作られた記録映画です。

—— チェーンソーで切り倒されてゆく2万4千本の立木、赤土がむき出しとなった工事用道路や着陸帯、暴力で作業現場を守る機動隊。「刑特法」の脅しにひるむことなく、北部訓練場の中にある作業現場に向かう県民がいる。森の中では、ノグチゲラが立木に巣をつくり、子育てをしている。ヤンバルクイナがあちこちで鳴いている。高江の森は、小さな生き物の楽園、やんばるの中で一番豊かな生態系が残されていた。立ち入りを禁止して、北部訓練場の内側で進むヘリパッド建設。この映画で、あなたも現場の目撃者になる。(記録映画説明文より) ——

63分の上映後、参加者が感想を述べ合いました。

「この権力による横暴。苦しく悲しい。この現実を見て自分が何をできるのか考えたい。」
「この抵抗の声が届かないのはなぜ?」「悲しい!選挙で勝つしかない。『土人』発言は我々に向けられた言葉。支配者に黙ってついてくればいいんだという考え方は、戦後これだけたっても何も変わっていない。」「沖縄へ行ってきた。現地は1日1日と状況が進んでいた。機動隊などやらされている人も仲間だからと『説得する』方法が貫かれている。沖縄の現状を知らせないメディアの存在が大きい。」「この映画は基地に特化したものではなく、命にかかわる問題だと影山さんは言いたいのではないか。」「沖縄へ年金者でも行ける方法を考えた(1週間4~5万)。勉強も大切だが、とにかく現地へ大勢で行って連帯して闘わなくては。」「訓練場を半分以上返還してくれることになっている・・・とTVで誇らしげに報道していた。都合の悪いことは伝えない。真実を伝える工夫が必要。」「米軍に出て行ってもらわなければ解決しない。中日新聞で独・伊と日本の地位協定の比較をしていた。日本のように不平等ではない。」「民間のトラックで警官を運ぶ場面があったが、とんでもないことである。民間が戦争に駆り出される態勢がいま沖縄に表れている。」「ヘリパッドを作るのも、オスプレイ問題も日米安保があるから。大部分の国民は日米安保を認めている。やめようとしたら政府を変えるしかない。米大統領がトランプになって米軍を引き上げると言ったらどういふ対応をするのか?もっと真剣に安全保障について考えなければいけない」・・・等々多くの意見が出され、20名余りの参加者すべてが沖縄での闘いを自分の問題としてとらえる機会になりました。

最後に12月7日に二人の女性によって提唱されたオバマ大統領への公開書簡が紹介されました。その書簡では「米国政府は米軍基地内の絶滅危惧種や希少種とその生息地を保護することを義務付けている」ことにも触れている貴重な文書です。（なお、日本外国特派員協会で行われた記者会見では、この映画で登場されたチョウ類研究者の宮城秋乃さんも同席されています。） ↓下記写真



ヘリパッド建設に反対するよう求めるオバマ大統領への書簡提出を発表する（右から）水口裕子さん、宮城秋乃さん、満田夏花さん
＝7日午後、東京都の日本外国特派員協会